

関連項目：教育活動プラン②、④

異学年交流を通して、自分や他人に対する理解を深める機会を増やす

目的

本校の児童は明るく元気で活動的ですが、人間関係が希薄であるために、規範意識が低い傾向があります。そこで、異学年交流をすることで、自分や他人に対する理解を深める事に取り組みました。

内容

● 縦割り班の作成

最近の小学生全般に当てはまると思われるが、習い事による遊ぶ時間の減少やゲームでの一人遊びのせいで、人間関係が希薄になっていると考えられる。そのために、個人の意志が優先され、わがままな考え方による規範意識の薄れや、人間関係構築のためのスキルの乏しさが見られる。そこで、異学年の集まる縦割りグループを作り、いろいろな体験活動をさせることで、人とつながる喜びを味わわせたり、自分や他人を理解したりする場を設ける試みを行った。この際、兄弟関係も重ならないように配慮した。

● 縦割り班での活動

全校生を42の縦割りグループに分け、1年生から6年生が1つのグループになって、週1回、朝の活動の時間を利用したりして、長縄跳びや自由遊び、カルタ取りをしたり、ふれあい給食などを行った。長縄跳びは、3分間で何回跳べるかをチームで競い合った。自由遊びは、6年生や5年生が何をして遊ぶか考えた。カルタ取りの時は、6年生が読み札を読み、1～5年生がカルタ取りを楽しんだ。ふれあい給食は、縦割り班で給食を食べた。

● 児童の変容

長縄跳びでは、うまく跳べない1・2年生に対して、5年生や6年生が跳び方を教えたり、一緒に跳んだりすることで、少しずつ跳べるようになってきた。1・2年生は5・6年生を慕うようになっている。また、5・6年生は、1・2年生が跳べるようになったことを自分のことのように喜んでいて、また、朝の時間だけでなく休み時間にも誘い合って長縄跳びの練習をするチームも出てきた。跳べる回数が増えるたびにチームの結束が堅くなった。

自由遊びの時は、5・6年生が1・2年生を気遣いながらゲームや遊びを考え、遊んでいた。また、カルタ取りの時は、3・4年生も1・2年生のことを気遣いながら活動する様子が見られるようになった。ふれあい給食の時は、仲良くなった異学年の仲間と給食を楽しそうに食べる姿が見られた。

ふれあい活動を通して、1・2年生は6年生や5年生の優しさに触れ、5・6年生を慕うようになった。また、5・6年生と1・2年生のふれあいの様子を見ることで、3・4年生も1・2年生に優しく接しようとするようになった。

さらに、昼休みなどにも異学年で遊ぶ姿を見るようになった。

成果

こうしたふれあいを通じて、5・6年生は、高学年としての自覚と自尊心をもつようになり、低学年の児童は、高学年のお兄さんやお姉さんに対するあこがれと尊敬の気持ちをもつようになった。人とつながる喜びを、児童に味わわせることができたのではないかと思う。

